

令和元年度 社会福祉法人一麦会(和歌山市・岩出市・紀の川市)における「障害者の生涯学習」に関する取組

社会福祉法人一麦会(麦の郷)について

1977年に任意団体「たつのご共同作業所」として発足。障害者・家族との出会いの中で「ほっとけやん(放っておけない)」として「地域協同」のもと、障害種別を超え、福祉の谷間や対象とされなかった人についての支援と仕組みづくりを推進している。現在、一麦会では、生活支援(生活介護・相談)、就労支援、グループホーム、障害児支援、ひきこもり者支援と計38事業を行っている。就労支援では、内職にみられるような型にはまった仕事を廃止し、地域住民や一般社会と関わりをもつことが出来る仕事おこしをおこなっている。一麦会で働く当事者たちは、支援を受け保護をされる対象ではなく仕事を任せ誇りと自信をもち地域で働いている。それは、支援者/被支援者という関係ではなく、地域社会の中で「共に歩み、共に働く」こと43年間実践し続けてきた実践体である。



学習プログラム構成と実施体制(事業名:ゆめ・やりたいこと実現センターの運営)

全方向的な学びの保障

テーマ 学び合い そして 創り合う(共に学びを創り合うこと)

人は生涯にわたって学び続け発達する存在、学ぶことで幸せを追求することが生涯学習



夕刻のたまり場(居場所)

ゆっくりしたり、食べたり、飲んだり、してみたいことを話したり、フリーな居場所(毎週水曜日16時~20時)毎回約14名が参加

<参加者の声>

- ・『知れてよかった落語の魅力』と『絶滅しじり動物』のパワーポイントを作ってみんなに見てもらいながら話をした。新しい知識に出会ったという反応が伝わってきた。
- ・自分の意思で行くことと休むことを選んでいる。電車とバスで1時間半ほどかかるので帰ってきたら9時半ごろになるけど、楽しそう。
- ・みんなで食べる夕食は楽しい。
- ・自分が行きたくなる場所。みんなに会いたくてたまり場に来ている。純粋になって帰れる。

やりたいことを提案・企画・実現みんなで創る活動

やりたいこと講座

「興味はあるけどしたことがない」「やってみたくてひとりではむずかしい」そんな「やってみたくて！」を出し合って実現していく

<受講生>講師に頼まれて、経験したことを話せたことがうれしかった。緊張せずに話せたし、みんなしっかり聞いてくれて楽しんでいたのでよかった。自分が役に立つことがあればまた話したい。

<講師>教えるつもりで来たけれど、丁寧に取り組んでいる姿を見て、逆に教えられた。みんな率先しようという意欲的な気持ちがある。

<家族>「助手としてバリ島の話をする!」と言って、うれしそうに自宅にあるバリ島のおみやげを持って参加した。頼りにされることがとてもうれしいようで、そんな出番を作ってもらえたこともありがたい。

<講座一覧 全55講座

(複数回開催あり) >

ちぎり絵講座、〇と△アート講座、音楽で学ぼう中国の文化、ヨガでこころもからだも気持ちよく、フルーツコースターづくり、トークと絵本のつどい、世界にひとつのマグネットづくり、俳句に挑戦してみよう、寄せ植えをつくらう、折り染めにチャレンジ、デニムアートをしよう、ポリ袋クッキング、かんたん!パソコン講座①~④、音楽療法を体験しよう、書道でアート、毛糸のブローチ・ストラップづくり、やりくりの達人になろう講座、魔線敷ハイキング、ジャンベを奏しよう、マカロニアート、チェンバリーハーブの音色を楽しもう、みんなでつくろう「生きものの楽園」段ボールアート、ストレッチ講座、もこもこマグネット講座、フラワーアレンジ講座、クッキング講座、バリ島の楽しさを味わおう講座、カラオケ講座、おいしいコーヒーの淹れ方講座、マジック講座 他



連携協議会

障害当事者や地域で生涯学習の活動をしている団体と今年度から和歌山大学教育学部教授、県立県立学校教育課特別支援教育室室長、県立生涯学習課企画調整班長も加わり17名で構成している。



衣・食・住・働が保障されていることで「生きる」ことが出来ること、学びや活動・役割が保障されていることで「生きる」ことが出来る。『生』『活』を保障し「ゆめ」や「やりたいこと」を実現させるセンターです!

受動的参加 から 主体的参加への仕掛け

「知りたい」「やってみたくて」ことを表明 → 深く学びたい → 講師の助手をしたい → 自分が講座を企画したい

主体的 学び への仕掛け

当事者の興味関心 + 連携協議会委員・コーディネーターの学びの面白さ喜びを伝えたい + その道の精通者魅力あふれる講師陣との出会い

= 豊かな人生との出会い